

＜令和 5 年度日本語学校教育研究大会趣旨＞

大会テーマ『新たな時代における日本語学校と日本語教師－制度化と AI 時代の中で－』

大会委員長 惟任将彦（大阪 YMCA 学院）

本年 6 月 2 日、「日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律」が公布されました。この法律の目的は、「日本語教育機関の認定制度」と「認定日本語教育機関の教員の資格」の創設であり、来年 4 月 1 日より施行されます。このように、日本語学校と日本語教師を取り巻く状況は、1983 年の「留学生受入れ 10 万人計画」以来の 40 年間で最大の転換点に立っていると言えますが、その一方で、ChatGPT をはじめとする生成 AI が急速に進歩、普及し、日本語教育の現場においても、コミュニケーションとは、外国語学習や留学の意味とは、そして、日本語学校、および日本語教師の役割とは何かが問い直される状況となっています。

そこで、本大会のテーマを「新たな時代における日本語学校と日本語教師－制度化と AI 時代の中で－」といたしました。大会前半の午前には、二本の講演を予定しております。まず、文化庁国語課から日本語教育施策の動向について、おもに認定日本語教育機関と登録日本語教員に関する議論の現状をお話しいたします。その後、東京大学から中澤明子先生をお招きし、「生成 AI を活用した授業実践－教員の役割と課題－」と題し、アクティブラーニングにおける生成 AI 活用の実践と課題、および授業のデザイン等についてお話しいたします。

以上を踏まえ、大会後半の午後には、三つの分科会を予定しております。一つ目は、日本語教育機関の認定に大きくかかわることになる「日本語教育の参照枠」を生かしたカリキュラムデザインに関するもので、ワークショップが中心のプログラムとなります。二つ目は、今後ますます重要となる教員研修に関するもので、文化庁委託の日本語教員研修の「初任」「中堅」「主任」を実施なさっている先生方を講師にお招きし、研修の内容や受講者の声、課題等についてお話しいたします。そして三つ目は、生成 AI に関するもので、武蔵野大学の藤本かおる先生をお招きし、生成 AI との向き合い方や接し方、そのメリット、デメリット等についてお話しいたします。

そして最後に、日頃の授業等の実践を共有する場である「実践ちょっと見」を予定しております。教員同士の連携、協働に関する実践や、日本語学校と地域との連携に関する実践、また所属機関を越えた複数の教員による実践など、今回も非常に興味深い内容の実践発表が八本ございます。発表者と参加者による活発な意見の交換が楽しみです。

今、日本語学校と日本語教師は大きな転換点に立たされており、これからどうなるのか不透明な状況ですが、そのような中でも前向きにとらえ、新たなことに取り組んでいくための何らかのヒントを本大会で得ただけければ、それに勝る喜びはありません。なお、昨年度に引き続き、今年度もオンラインによる一日のみの開催となりますが、来年度はコロナ禍前のような対面での開催を予定しております。